

課題番号	LS022
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成 25 年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発
研究機関・ 部局・職名	千葉大学・大学院看護学研究科・教授
氏名	森 恵美

1. 当該年度の研究目的

本研究の最終目的は、高年初産婦(35歳以上の初産婦)に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドラインの開発である。本年度の研究目的は、【研究3】として、公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する医療情報サービス事業(Medical Information Network Distribution Service;Minds)診療ガイドラインの開発手順に従い、クリニカルクエスション(Clinical Question;CQ)の設定、エビデンス収集、システマティックレビューを行い、エビデンスの総体を記述することを通して、本ガイドラインを開発することであった。産後4か月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究【研究1】と産後6か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究【研究2】の研究成果もエビデンスとして活用し、子育て支援ガイドラインを作成することを目的とした。なお、当初の計画では【研究3】において、アクションリサーチを用いる予定であったが、診療ガイドラインの開発手順に準じる方法の方が汎用性が高く臨床応用できるケアガイドラインを作成することができると考え、先述のように変更した。

2. 研究の実施状況

産後6か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究【研究2】の結果から、高年初産婦における産後の健康問題を確定し、本ガイドラインのための5つのCQを策定した。【研究3】として、Mindsの「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集(暫定版、2013年)」に基づいて、5つのCQごとにシステマティックレビュー(Systematic Review;SR)を行い、エビデンスの抽出、エビデンスの強さを検討した。合議のもとに「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン(案)」を作成した。なお、本ガイドラインが適用される対象範囲は、35歳以上で単胎児を出産した産後1か月以内の日本人の初産婦で、分娩後の経過に大きな異常がない母親と新生児(産後入院中に直接授乳及び母子同室をすることができる)とした。本ガイドライン(案)については、専門家による外部評価(AGREE II評価)を受けた。さらに、推奨草案をホームページに公開し、パブリックコメントを受けた上で最終推奨文を完成し、エビデンスづくりや本ガイドラインの作成方法を含めて記述し、平成26年3月にガイドラインとして発刊した。本ガイドラインの完成版(詳細版)は、私たちのホームページ(<http://www.mamatasu.jp/>)において公表した。また、同時期に、産後4か月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究【研究1】と産後6か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究【研究2】の研究成果について研究報告書にまとめて発刊した。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計6件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計4件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 森恵美, 土屋雅子, 佐伯章子, 岩田裕子, 前原邦江, 坂上明子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子. 高年初産婦の産後入院中の睡眠期と覚醒期における身体活動量分析—夜間母子同室の有無による影響の検討—. 看護研究, 2014, 47(2), 136-148. 2) Akiko Sakajo, Emi Mori, Kunie Maehara, Tomoko Maekawa, Harumi Ozawa, Akiko Morita, Kyoko Aoki, Hiroko Iwata. Older Japanese primiparas' experiences at the time of their post-delivery hospital stay. Journal of Nursing and Human Sciences. 2014; 20 (Suppl. 1), 9-19. 3) Emi Mori, Hiroko Iwata, Akiko Sakajo, Kunie Maehara, Harumi Ozawa, Tomoko Maekawa, Akiko Morita, Akiko Saeki. Postpartum experiences of older Japanese primiparas during the first month after childbirth. Journal of Nursing and Human Sciences. 2014; 20(Suppl. 1), 20-31. 4) 佐伯章子, 森恵美, 土屋雅子, 岩田裕子, 前原邦江, 坂上明子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子. 緊急帝王切開となった高年初産婦の産後 4 か月間の睡眠と身体症状の変化—産後の身体的回復が対照的であった2事例の検討—. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 2014, 36, 1-9. <p>(掲載済み一査読無し) 計0件</p> <p>(未掲載) 計2件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前原邦江, 森恵美, 坂上明子, 岩田裕子, 前川智子, 小澤治美, 森田亜希子, 青木恭子. 高年初産の母親の産後1か月間におけるソーシャルサポートの体験. 母性衛生 (accepted, 第55巻2号に掲載予定). 2) 坂上明子, 前川智子, 森恵美, 森田亜希子, 小澤治美, 前原邦江, 岩田裕子. 初産婦における産後入院中及び産後1か月の母乳育児確立状況—不妊治療の有無による相違—. 日本生殖看護学会誌 (accepted, 第11巻1号に掲載予定).
<p>会議発表 計13件</p>	<p>専門家向け 計11件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子, 前原邦江, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後 1 か月間における子育て生活体験. 仙台, 2013/07/06-07, 第15回日本母性看護学会学術集会. 2) 坂上明子, 森恵美, 前原邦江, 前川智子, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後入院中における子育て生活体験. 埼玉, 2013/10/04-05, 第54回日本母性衛生学会総会・学術集会. 3) 前原邦江, 森恵美, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後1か月にける子育て生活経験—疲労, うつ, 母親役割の自信, 満足感との関連から—. 埼玉, 2013/10/04-05, 第54回日本母性衛生学会総会・学術集会. 4) Emi Mori, Kunie Maehara, Akiko Sakajo, Hiroko Iwata, Harumi Ozawa, Akiko Morita, et al. Postpartum progress patterns among first-time mothers over age 35 at 4 months after childbirth: Fatigue, depression, and maternal role attainment. Seoul, 2013/10/18, The 3rd World Academy of Nursing Science. 5) 森恵美, 坂上明子, 岩田裕子, 前川智子. 交流集会 高年初産婦の子育て支援ガイドラインの検討. 大阪, 2013/12/06-07, 第33回日本看護科学学会学術集会. 6) Emi Mori, Kunie Maehara, Miyako Tsuchiya, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, et al. Maternal role confidence and satisfaction among primiparae over 35 years of age during the first month after childbirth: Comparisons with other age or parity groups. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 7) Miyako Tsuchiya, Emi Mori, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, et al. Development of the Postnatal Fatigue Scale: an investigation of validity and reliability among Japanese mothers. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 8) Miyako Tsuchiya, Emi Mori, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, et al. Predictors of postpartum fatigue among Japanese primiparous women of advanced maternal age: a multivariate analysis. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 9) Emi Mori, Yoshimi Mochizuki, Miyako Tsuchiya, Akiko Saeki, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, et al. Relationship between postpartum tenosynovitis and childrearing in the daily life of Japanese first-time mothers. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 10) Emi Mori, Yoshimi Mochizuki, Miyako Tsuchiya, Akiko Saeki, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, et al. Prevalence and persistence of physical problems in mothers during two months postpartum. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 11) Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Emi Mori, Akiko Morita, Miyako Tsuchiya, Kunie Maehara, et al. Factors associated with breastfeeding among older Japanese first-time mothers during hospitalization.

様式19 別紙1

	<p>Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars. 一般向け 計2件 1) 森恵美, 坂上明子. 市民公開講座「最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 エビデンスに基づく高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」. 埼玉, 2013/10/05, 独自企画, 公益社団法人日本母性衛生学会後援. 2) 森恵美, 坂上明子, 土屋雅子, 前原邦江, 岩田裕子, 前川智子他. 国民との科学・技術対話「広がる看護職者の仕事 2013」第1部「研究成果による高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発」. 大阪, 2013/12/07, 独自企画.</p>
<p>図書 計2件</p>	<p>1) 執筆代表者: 森恵美. 高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン. 267 頁, 研究グループ作成, 2014. 2) 執筆代表者: 森恵美. 平成 22～25 年度最先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 研究課題「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」(課題番号: LS022) 研究報告書, 73 頁, 研究グループ作成, 2014.</p>
<p>産業財産権 出願・取得状況 計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>ママたす(mama+) http://www.mamatasu.jp/ 活動報告で研究成果を報告する他、子育て情報の配信や意見募集等を行っている。</p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>1) 森恵美, 坂上明子. 市民公開講座「最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 エビデンスに基づく高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」. 埼玉(大宮ソニックシティ), 2013/10/05. 公益社団法人日本母性衛生学会の後援を得て、第 54 回日本母性衛生学会総会・学術集会の1会場を借りて、一般の方向けに独自企画で実施した。産後4ヶ月間の縦断調査(研究1)の成果、多施設前向きコホート調査研究(研究2)の成果とガイドライン開発の過程をわかりやすく説明した。参加者は看護職者及び当事者を含めて約 200 名であり、研究成果からガイドラインが開発される過程がわかり、ガイドラインの完成と活用を期待しているという感想を得た。 2) 森恵美, 坂上明子, 土屋雅子, 前原邦江, 岩田裕子, 前川智子他. 国民との科学・技術対話「広がる看護職者の仕事 2013」第1部「研究成果による高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発」大阪(大阪国際会議場), 2013/12/07. 一般の方を対象にして、参加費無料で行った。HPと「ママたす友の会」のメールマガジン、第33回日本看護科学学会学術集会開催通知と一緒に広報を積極的に行った結果、看護師を含めて約 70 名の参加を得ることができた。多施設前向きコホート調査研究(研究2)の成果を紹介し、システムティックレビューを含めたガイドライン開発の過程をわかりやすく説明した。</p>
<p>新聞・一般雑誌等掲載 計1件</p>	<p>・森恵美: 産後ケアのニーズと子育て世代の高齢化, 月刊「母子保健」, 2014 年1月号(第 667 号), 6-7, 2014</p>
<p>その他</p>	<p>2014 年 2 月 28 日、FIRST シンポジウム「『科学技術が拓く 2030 年、』へのシナリオ」における NEXT ライフ・イノベーション・ポスターセッションにおいて、FIRST、NEXT そして来場者による投票によって銅賞(3位)に選ばれた。</p>

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成25年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	80,000,000	57,898,000	22,102,000	0	
間接経費	24,000,000	17,369,400	6,630,600	0	
合計	104,000,000	75,267,400	28,732,600	0	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	1,315,295	22,102,000	0	23,417,295	23,417,295	0	
間接経費	0	6,630,600	0	6,630,600	6,630,600	0	
合計	1,315,295	28,732,600	0	30,047,895	30,047,895	0	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	108,386	書籍、文具等消耗品等
旅費	242,290	研究成果発表旅費(WANS、日本母性看護学会等)
謝金・人件費等	19,192,702	研究員人件費、研究協力謝金等
その他	3,873,917	英文校正代、文献複写、質問紙入力作業代等
直接経費計	23,417,295	
間接経費計	6,630,600	
合計	30,047,895	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		